

後求められる主な取組の中で、柔軟な指導体制づくりが提言され、教職員同士の連携協力を深めることが重要であることが述べられている。まずは、全教職員が共通のテーマで個に応じた教育、学力の定着を凶の方策を考えることが大事であり、しかも、子どもたちが自分たちに適した力を身に付けることができるようになるには、じっくり研究に取り組むことが大事である。盲・聾・養護学校は、一つの学校に小学部（幼稚部）から高等部（中学部）まで設置されており、幼児児童生徒の状況だけでなく、学部の運営や教育課程も異なり、学校全体が一つの研究テーマで研究を推進するには様々な困難が予想されるが、それを何年も継続して実施していることは敬服に値する。

2 「国語科」における個別の指導計画

同校では、各教科等ごとに個別の指導計画を作成し、授業実践等に役立てている。表1は個別指導計画の例であるが、国語科の領域である「聞く・話す」「読む」「書く」ごとに学校でチェックリストを作成して実態を把握し、それに基づいて、各学年ごとの長期目標、題材ごとの短期目標と具体的指導内容、手だてを設定している。個別の指導計画を作成し具体的に記述していくことで、児童生徒の実態について分かっていることとまだ分かっていないことが明らかになり、また、チェックリストで多面的な実態を把握することができたと教師の多くが感想を述べたという。しかし、チェックリストによる実態把握と個別の指導計画の作成が中心で、これからどう活用していくかが最も大きな課題であると聞く。中間まとめでも、学力の現状と課題を直視し、これまでの指導の在り方を再点検するとともに、教えるべき内容は確実に教え、基礎・基本を徹底していく構えが必要であることが提言されている。盲・聾・養護学校の場合、幼児児童生徒の障害の種類や程度は多様であり、能力、適性についても一人一人異なることから、的確な実態把握と一人一人に即応した指導が必要であると言われているが、的確な実態把握とともに、一人一人に応じた教育内容・方法の実践の重要性を本校の個別の指導計画作成の経緯をお聞きしながら再認識した。

表1 個別の指導計画

中学部3年 ○児 (Aグループ)

長期目標	場に応じたあいさつ、言葉遣いを意識する。 読み書きのできる漢字を増やす。			
短期目標	題材「手紙、はがき、年賀状」 丁寧な文字ではがきを書くことができる。			
具体的指導内容・手だて	・ 時候のあいさつの書き方 形式の練習 ・ 干支、賀詞の学習	生徒の様子	・ はがきと手紙の違いがはっきり分らない。 ・ 「暑中見舞い」という漢字を覚えることができた。 ・ 干支を順序よく覚え、言うことができるようになった。	評価・考察 ・ 季節的習慣や時候のあいさつなどを学習したが、日常生活に生かせるように指導することが必要である。